

全国初 事故防止へ埼玉県が条例

エスカレーター 歩いちやダメ

エスカレーターは歩かず立ち止まって乗るように努力義務を課す全国初の条例が、埼玉県で10月に施行された。業界団体によると、そもそも歩くように設計されていないが、片側を空ける「慣習」はなぜ、いつ始まったのか。識者は、経済の効率化を求めた背景があったとし「弱者への視点が欠けていた時代の遺物」と明言する。

「手すりにつかまり、立ち止まってご利用ください」。JR大宮駅(さいたま市)では1日朝、構内に注意喚起のアナウンスが流れたが、エスカレーター左側に行列ができ、右側を急ぐ人が歩くいつもの風景があった。

70代の主婦は「足が悪く、利用時は縮こまっている」と悩ましげ。階段を下りてきた同市の公務員、Aさん(68)も「歩く人に怖い思いをさせられたことがある。条例を知り、従ってほしい」と話した。

JR東日本によると、県内では2020年度、歩きながら利用中につまずくといった事故やトラブルが7件発生。条例施行を機に、駅や電車内での周知を中心とした「歩かず立ち止まろうキャンペーン」を開始した。

立ち止まる前提

歩く人向けに片側を空けるの



条例が施行された1日、歩かずに立ち止まってエスカレーターを利用する人たち=さいたま市のJR大宮駅

は「マナー」のように認知されてきた側面がある。だが業界団体「日本エレベーター協会」(東京)によると、エスカレーターの安全基準は歩いて利用することが想定されていない。

建築基準法施行令では、エスカレーターには緊急停止機能を付けることが義務。停止時の安全も考慮し、立ち止まるとの利用が前提だ。どこでも手すり

をつかめるようステップ幅は110センチ以下と定められている。またエスカレーターは左右対称に作られており、偏った利用がされた場合は片側の摩耗が激しくなる恐れもある。

では、もともと想定されていない「慣習」はなぜ、いつ始まったのか。エスカレーターを研究した斗鬼正一・江戸川大名大学教授(70)

急ぐ人に片側空ける「慣習」は…

高度成長期 効率求めた名残

「文化人類学」によると、世界で最初に呼び掛けられたのは1944年ごろのロンドン。「第2次世界大戦の最中で、国の生産性を高めるため、市民の行動に効率を求めた時代だった」と分析する。

弱者へ配慮欠く

日本では67年ごろ、関西の鉄道会社が「急いでいる人のために」とアナウンスしたとされる。高度経済成長期で「モレツ(猛烈)社員」が流行語となる時代だった。東京で始まったのは89年ごろ。明確な呼び掛けの記録などはないというが、バブル経済ただ中で「24時間戦えますか」が流行語となった年だ。

斗鬼氏は、いずれも「効率化」を求めた時代背景があったとしながらも、それは同時に「弱者に対する思いやりが欠けていた時代でもあった」と厳しい意見を述べる。

2021年の現在、高齢化社会となった日本。駅に行けば、つえをついている高齢者も多い。

斗鬼氏は埼玉県の条例制定を好意的に捉えながらも「歩かないのは思いやり。ルールだからというのではなく、個々人が他者を考えて利用してほしい」と呼び掛けた。



年 組 名前

道新のワークシート

①今回、埼玉県で制定された条例はどのような内容ですか、記事を参考に書きなさい。

②今回の条例はどのような考えから制定されましたか、記事を参考に書きなさい。